



JR九州グループの会社説明会

2024年3月5日

九州旅客鉄道株式会社（証券コード：9142）



KYUSHU RAILWAY COMPANY



本日お伝えしたいこと



JR九州グループ について

- JR九州グループのあゆみ
- JR九州グループの主な事業内容
- JR九州グループの強みの源泉

決算ハイライト ・ 株主還元

- 2024年3月期第3四半期決算ハイライト
- 主なセグメントの状況
- 2024年3月期通期連結業績予想
- 株主還元方針
- 株主優待制度

JR九州の 経営戦略

- JR九州グループの経営計画の体系
- 本中期経営計画の重点戦略
- 本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり
- JR九州グループにおけるESGの取り組みについて



JR九州グループについて



KYUSHU RAILWAY COMPANY

企業プロフィール（2023年3月31日現在）

■ 会社名称	九州旅客鉄道株式会社
■ 設立	1987年4月1日
■ 本社	福岡市博多区博多駅前3丁目25番21号
■ 資本金	160億円
■ 従業員数	単体7,311名(連結14,269名)※2023年4月1日現在
■ 事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
■ 発行済株式総数	157,301,600株（単元株式数：100株）
■ 上場市場名	東京証券取引所（市場1部）2016年10月25日上場 （新市場区分：プライム市場【2022年4月～】） 福岡証券取引所 2016年10月26日上場



■ 株主数	175,571名
■ 発行体格付（R&I）	AA－（安定的）



※格付信用度 AAA> AA>A>BBB>BB>B>CCC>CC>D

■ 子会社・関連会社	子会社	59社（うち	連結子会社46社）
	関連会社	7社（うち持分法適用関連会社4社）	



JR九州グループのあゆみ



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループのあゆみ



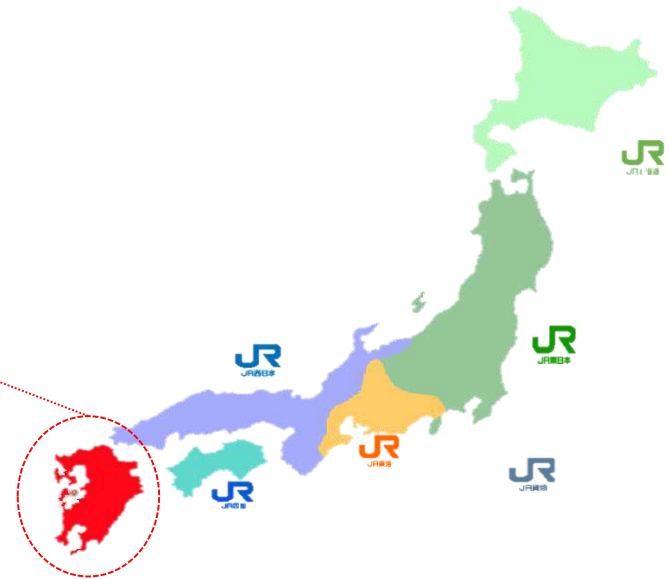
- 「日本国有鉄道」の分割民営化によりJR九州が発足

■ あらゆる事業に挑戦する精神

「鉄道事業だけに依存してはいけない」という思いで、
様々な事業に挑戦し成長を実現してきた



JR
JR九州
1987



JR九州グループのあゆみ



●地域を元気にするという思いのもと**鉄道事業**と**関連事業**の両輪であらゆる価値を創出



国際航路開設「ビートル2世」



高級中華レストラン「華都飯店」



ハウステンボスジェイアール全日空ホテル



ステーションホテル小倉



うまや

- 初の分譲マンション「MJR笹丘」販売開始
- (株)ジェイアール九州ファーストフーズ設立

- 国際航路開設「ビートル2世」就航
福岡～釜山間(2時間55分)
- 高級中華レストラン
「華都飯店」開業

- 「JR内野カントリークラブ」開業
- 「ホテルプラッサム福岡」開業

- 「ハウステンボスジェイアール全日空ホテル」開業
※現ホテルオークラ系「ハウステンボス」
- ジェイアール九州リーテイル(株)設立
- ジェイアール九州フードサービス(株)設立

- 「アミュプラザ長崎」開業、
「JR九州ホテル長崎」開業

- 「うまや」東京赤坂に開業

- 「ステーションホテル小倉」開業

- 新小倉駅ビル(アミュプラザ)開業

- 「アミュプラザ鹿児島」開業



アミュプラザ長崎



アミュプラザ鹿児島

九州旅客鉄道株式会社発足

1987



- ダイヤ改正(1回目)
- 特急「ゆふいの森」運行開始
- 大村線電化開業
(早岐～ハウステンボス間)
- 初の運賃改定実施
- 「駅長おすめのゆ」発売
- 宮崎空港線開業
- 第1回JR九州
ウォーキング開催
- 豊肥本線電化開業
(熊本～肥後大津間)
- 新・特急回数券「2枚きっぷ」「4枚きっぷ」登場
- 篠栗線・筑豊本線(福北ゆたか線)電化開業
(篠栗線全線、筑豊本線 折尾～桂川間)
- 総合指令システム
(JACROS)完成
- 九州新幹線開業(新八代～鹿児島中央間)
- 特急「はやとの風」、「九州横断特急」、「ゆふDX」、
特別快速「なのはなDX」、「いさぶろう・しんべい」運行開始



ゆふいの森



九州横断特急



九州新幹線



いさぶろう・しんべい

JR九州グループのあゆみ



●九州新幹線・JR博多シティ開業の2011年以降、成長は更に加速



不動産・ホテル

流通・外食

建設

ビジネスサービス



運輸サービス



JR九州グループのあゆみ(「ななつ星 in 九州」運行10周年)





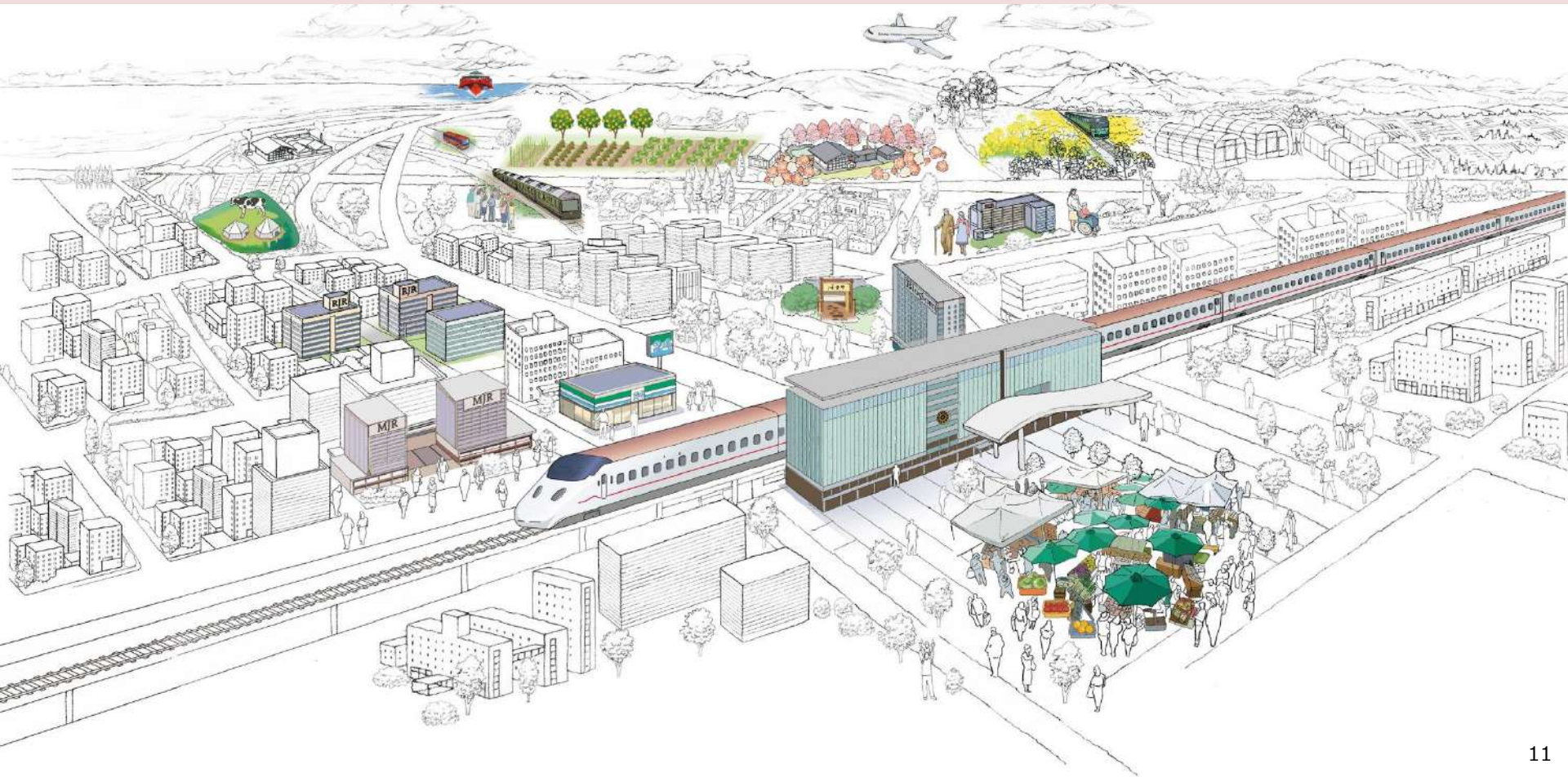
JR九州グループの主な事業内容



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループの主な事業内容

- JR九州グループは、九州全域に鉄道網を有する鉄道をコア事業とする企業グループ
- 駅ビルやホテル、マンション、建設、船舶、流通や外食事業など、鉄道事業との相乗効果が高い領域を中心にその事業領域を拡大

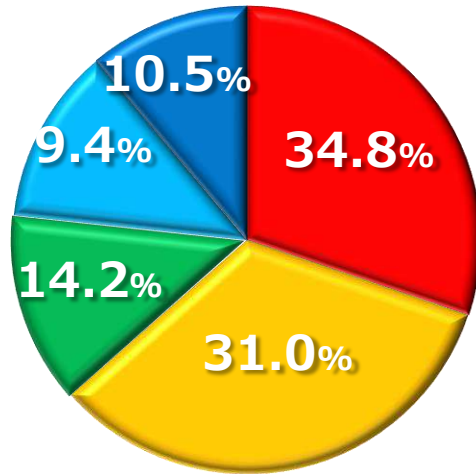


JR九州グループの主な事業内容



- 鉄道以外の事業による売上が約7割となっており事業の多角化が進んでいる

【セグメント別 売上構成比（2023年3月期）】



運輸サービス



不動産・ホテル



流通・外食



建設



ビジネスサービス





JR九州グループの強みの源泉



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループの強みの源泉:社員の“個”の最大化



安全

＜安全に関する社員の声＞

“安全はあるものではなく、つくりあげていくもの”
との考えのもと、**安全性向上**に取り組む



サービス

＜お客さまの声＞

「サービスを社風へ」と高めるべく、お客さまの声
に耳を傾け、サービスのさらなる向上・改善に注力



人づくり

＜新規事業提案制度を通じた多様なキャリア＞

自ら学び、挑戦する人づくりに取り組み、
多様な人材が生き活きと活躍できる環境をつくる



2024年3月期 第3四半期決算ハイライト



KYUSHU RAILWAY COMPANY

2024年3月期 第3四半期決算ハイライト



- 各セグメントにおける需要が回復したことにより、対前年で連結営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益はすべて増収・増益

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	2,612	2,929	316	112.1%
営業利益	225	431	206	191.7%
経常利益	235	448	212	190.5%
特別損益	27	67	39	246.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	215	407	191	189.1%
EBITDA ^(※)	442	671	228	151.7%

※EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く） 以下、全て同様です。



主なセグメントの状況



KYUSHU RAILWAY COMPANY

主なセグメントの状況



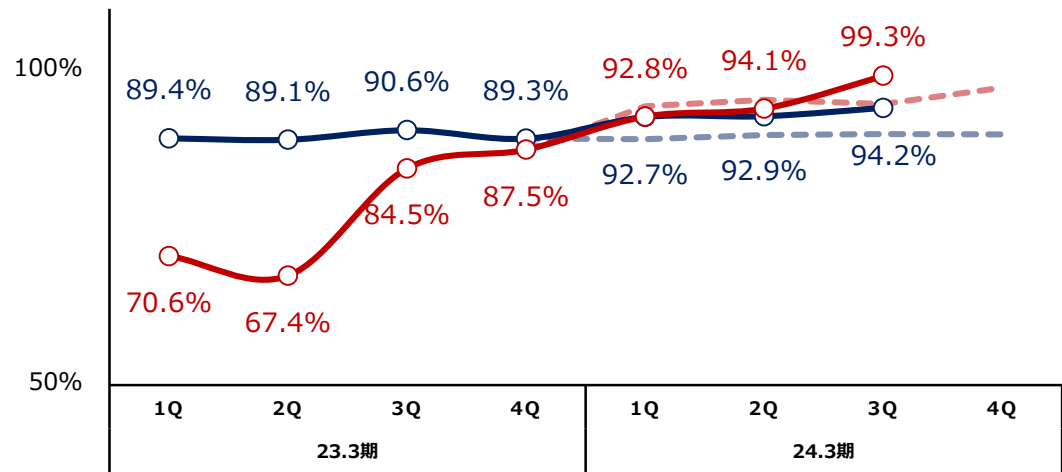
運輸サービスセグメント

- 鉄道旅客運輸収入は、回復率が伸長し、想定並みの水準で推移

	【実績】 (単位：億円)				【業績予想】 (単位：億円)			
	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年		2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	1,009	1,222	212	121.1%	1,383	1,607	223	116.2%
うち単体・鉄道事業	999	1,200	201	120.1%	1,365	1,569	203	114.9%
鉄道旅客運輸収入	887	1,085	198	122.3%	1,214	1,428	213	117.6%
営業利益	43	191	148	438.2%	25	132	106	523.2%
うち単体・鉄道事業	50	195	144	387.8%	31	133	101	422.7%
EBITDA	122	279	157	229.0%	131	254	122	193.3%
うち単体・鉄道事業	126	280	153	220.9%	135	252	116	186.4%

鉄道事業 | 鉄道旅客運輸収入 (対19.3期)

点線：想定
実線：実績



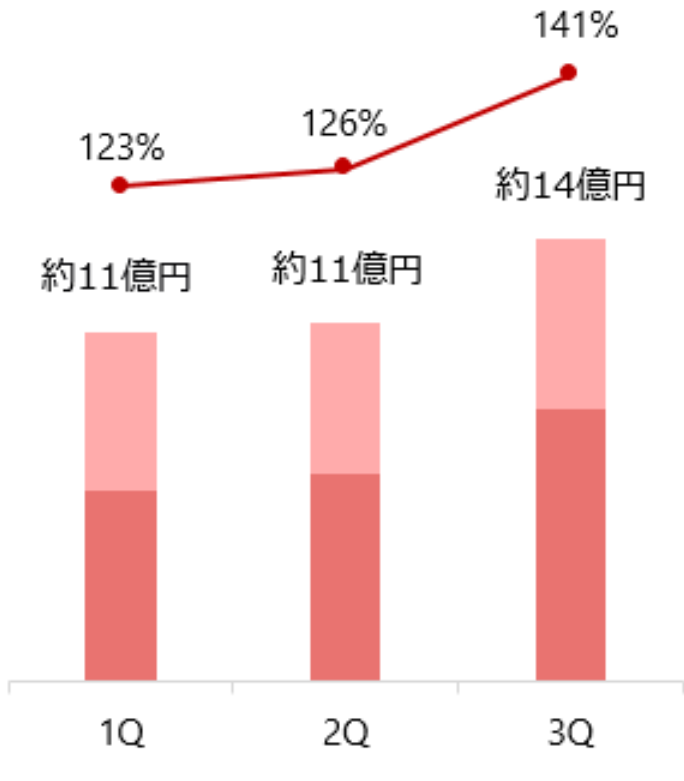
主なセグメントの状況

運輸サービスセグメント（インバウンド）

- 3Qのインバウンド収入は、JR九州レールパスの価格改定の効果もあり、2Qから伸長

インバウンド収入（概算）の推移

JR-KYUSHU RAIL PASS その他 19.3期比



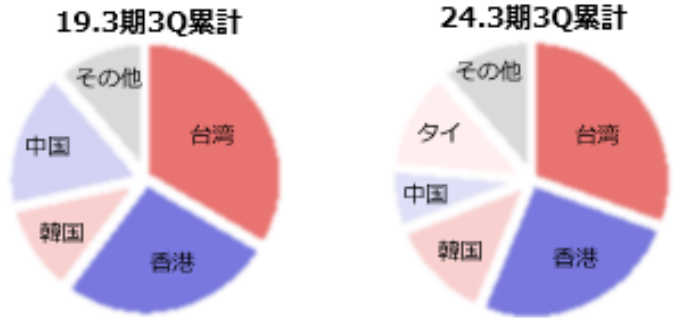
鉄道旅客 運輸収入に 占める割合	約3.3%	約3.2%	約3.7%
------------------------	-------	-------	-------

JR-KYUSHU RAIL PASSの需要動向

	19.3期 3Q累計	24.3期 3Q累計	
	実績	実績	19.3期比
販売数	17.7 万枚	18.8 万枚	106%
売上	16.9 億円	23.5 億円	139%
(参考) 単価 ※	8,500 円	~9.30 10,000 円 10.1~ 12,000 円	118% 141%

※北部九州(3日間)の金額

地域別販売先



価格の変遷（北部九州3日間）



主なセグメントの状況



不動産・ホテルセグメント

(不動産賃貸事業:駅ビル・オフィスビル・賃貸マンション)

- 主要既存駅ビルのテナント売上高は、回復傾向を維持
- オフィスビルや賃貸マンションも堅調に推移

【実績】

(単位：億円)

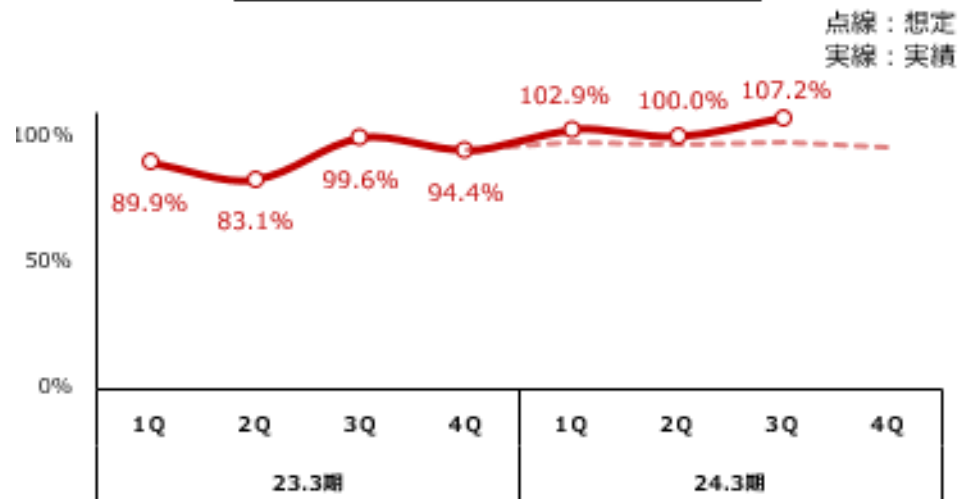
	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	462	512	49	110.7%
営業利益	116	127	10	109.2%
EBITDA	204	223	19	109.4%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	626	687	60	109.7%
営業利益	148	153	4	102.7%
EBITDA	267	286	18	107.0%

主要既存駅ビル[※]テナント売上 (対19.3期)



※博多、小倉、長崎（新駅ビル除く）、大分、鹿児島

主なセグメントの状況



不動産・ホテルセグメント（不動産販売事業）

- 分譲マンション販売は前年同期比で増加
- 保有物件の売却については、1Qと3Qに賃貸マンションを第三者へ売却したものの、23.3期の第三者へのオフィスビル売却の反動により減収

【実績】

（単位：億円）

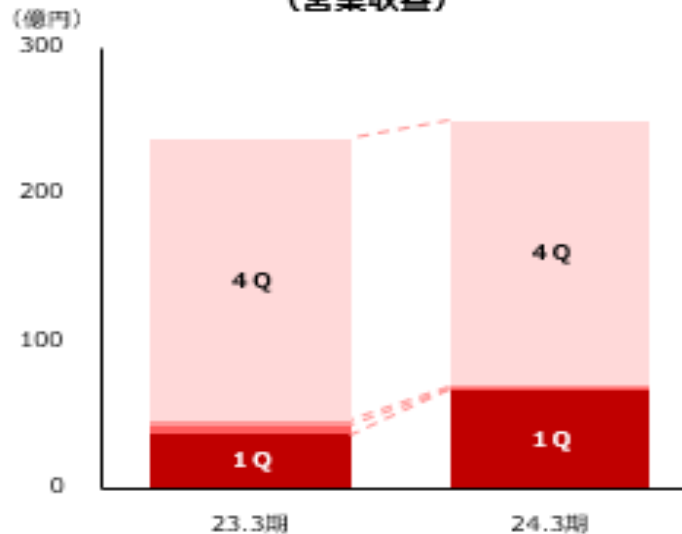
	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	164	137	△ 27	83.3%
営業利益	9	15	5	158.8%
EBITDA	9	15	5	158.0%

【業績予想】

（単位：億円）

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	435	387	△ 48	88.8%
営業利益	62	51	△ 11	81.6%
EBITDA	62	51	△ 11	81.3%

分譲マンション販売見込み
（営業収益）



主なセグメントの状況



不動産・ホテルセグメント（不動産販売事業）

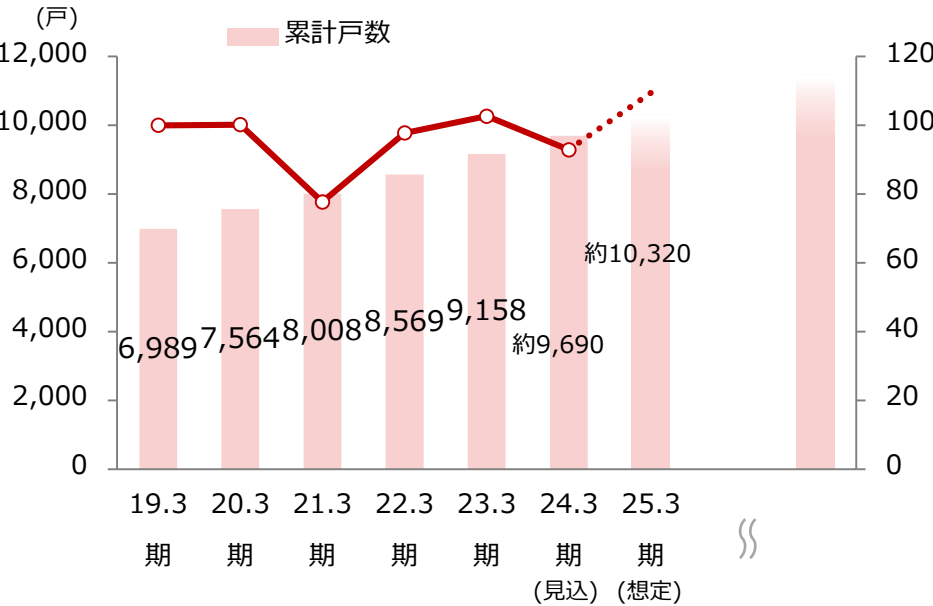
- 事業開始から30年以上が経過し、MJRブランドは九州内で確固たる地位と実績を確立
- 今後も安定的な供給を図るとともに、更なる沿線住民の増加や地域活性化を目指す

MJRブランドについて

- 1989年より分譲マンションの供給を開始
- 九州の主要都市を中心に、首都圏および関西圏でも事業を展開
- 九州トップクラスの販売実績を有する



販売戸数の推移



※1：19.3期の販売戸数を100とする
※2：24.3期以降の数値は計画値であり、実際の販売状況等により変動する可能性有

主な今後のパイプライン

竣工予定 24.3期

MJR深川住吉

所在地：東京都江東区
構造：地上14階建
引渡時期：2024年3月（予定）
戸数：165戸
販売状況：完売
※東京初進出物件



25.3期 26.3期

MJR博多ザ・レジデンス

所在地：福岡市博多区
構造：地上14階建
引渡時期：2025年4月（予定）
戸数：262戸
販売状況：販売中



MJR熊本ゲートタワー

所在地：熊本市西区
構造：地上30階建
引渡：2026年3月（予定）
戸数：236戸
販売状況：販売中



※京阪電鉄不動産株式会社との共同開発案件

主なセグメントの状況



不動産・ホテルセグメント（ホテル事業）

- 宿泊需要の更なる高まりを受け、ADRは20,000円台に突破
- 稼働率やインバウンド比率は2Qから上昇

【実績】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	119	182	63	152.9%
営業利益	6	34	27	515.9%
EBITDA	23	53	29	223.8%

【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
	169	210	40	124.2%
	9	10	0	104.0%
	32	37	4	112.4%

稼働率及びADR



主なセグメントの状況



流通・外食セグメント

● 人流回復に伴い、小売店と飲食店いずれも実績は好調に推移

【実績】

(単位：億円)

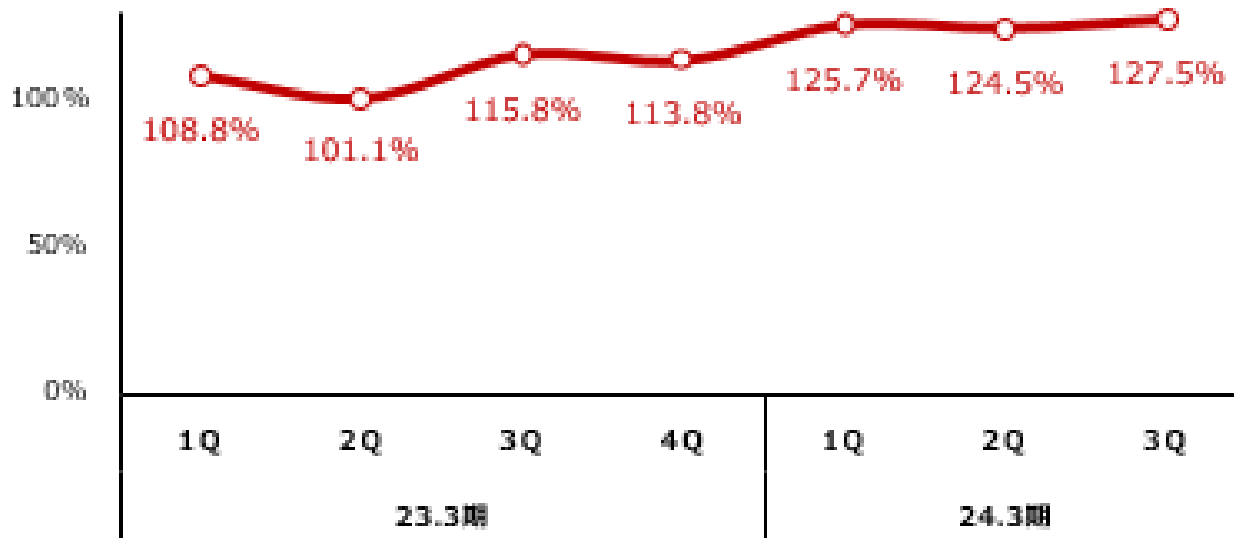
【業績予想】

(単位：億円)

	2023年3月期 3Q累計実績	2024年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	402	458	56	113.9%
営業利益	10	28	17	266.3%
EBITDA	20	37	17	186.6%

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	547	558	10	101.9%
営業利益	14	20	5	141.7%
EBITDA	27	33	5	121.1%

セグメント店舗売上高（対19.3期）



※ドラッグイレブン（2023年5月全保有株式譲渡）、トランドール（2023年5月保有株式譲渡）の実績は除く、萬紡（2019年12月子会社化）、ヌルボン（2021年10月事業譲受）の実績は含む



2024年3月期通期連結業績予想



KYUSHU RAILWAY COMPANY

2024年3月期 通期連結業績予想ハイライト



営業収益

保有物件の売却の減少を見込むも、各セグメントにおける需要の緩やかな回復や長崎駅周辺開発の開業等により増収

営業利益

鉄道事業における動力費の増や、長崎駅周辺開発に伴う開業費等を見込むも、営業収益の増により増益

(単位：億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 通期予想	対前年	
営業収益	3,832	4,170	337	108.8%
営業利益	343	457	113	133.1%
経常利益	357	459	101	128.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	311	407	95	130.6%
EBITDA	638	783	144	122.6%



株主還元



KYUSHU RAILWAY COMPANY

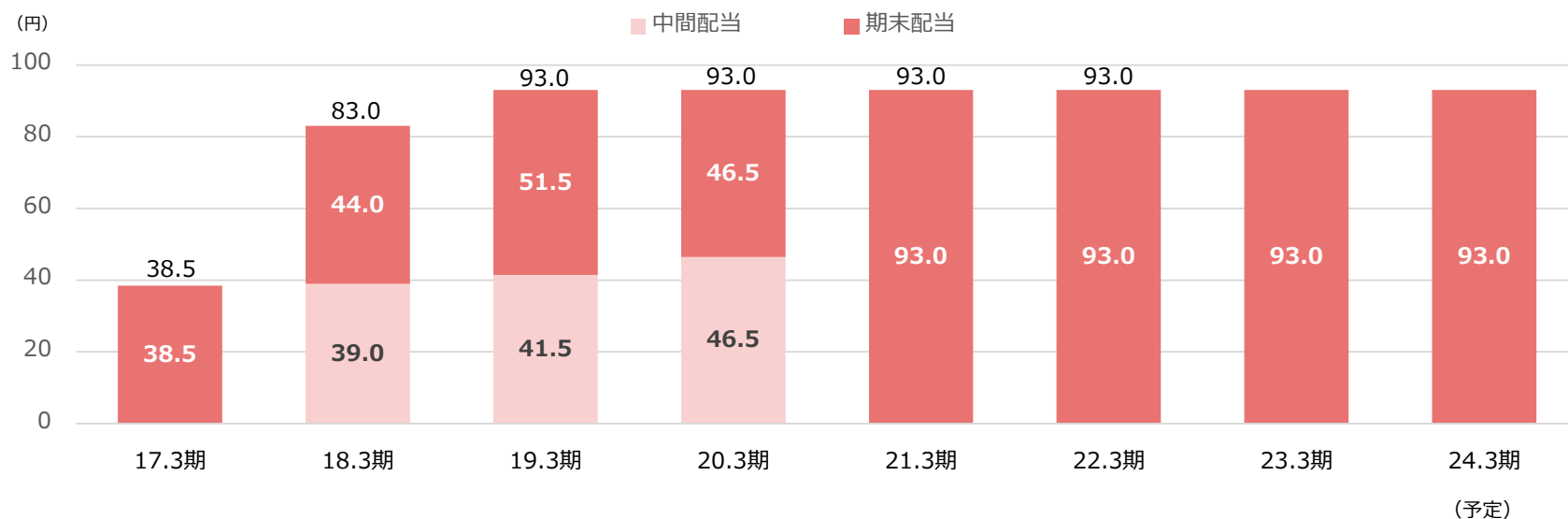
株主還元方針

- 2024年3月期は**期末に1株当たり93円**の配当予定

株主還元方針

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2025年3月期まで1株当たり配当金93円を下限として、連結配当性向35%を目安に配当を行い、状況に応じて機動的に自己株式取得を行う

(参考) 1株当たり年間配当金の推移



配当性向	13.8%	26.3%	30.2%	46.9%	-	110.3%	46.9%	35.9%
総還元性向	13.8%	26.3%	30.2%	78.6%	-	110.3%	46.9%	35.9%

※自己株式取得 (100億円)



株主優待制度



KYUSHU RAILWAY COMPANY

株主優待制度



● 3種類の株主優待

※ 3月31日を基準日として株主優待制度を実施し、6月下旬に送付しています。

鉄道株主優待券

1枚につき、お一人様の運賃が1日無料（**1日乗車券タイプ**）
特急列車・新幹線にご乗車の場合は、別途特急券が必要

JR九州グループ 株主優待券

JR九州グループの各利用対象施設で
現金同様にご利用可能な**500円券**（一律5枚）

JR九州高速船 株主優待 割引券

QUEEN BEETLE（クイーンビートル※スタンダードクラス）
国際航路（福岡-釜山） 1名さま往復運賃 **10,000円**

株主優待制度（鉄道株主優待券 昨年7月に制度改正）



- お一人様1日限り、JR九州管内の快速・普通列車に乗り放題
（日田彦山線BRTもご乗車いただけます）
- 別途、特急券等をご購入いただければ、特急列車・新幹線、D&S列車にもご乗車いただけます。
- 鉄道株主優待券と併用する特急券は、券売機やインターネット予約でも購入いただけます。

＜ご利用の際の運賃・料金のイメージ＞

博多→鹿児島・指宿温泉へ

（大人お一人さまで九州新幹線自由席、特急「指宿のたまて箱」指定席、片道利用の場合）

通常料金：12,440円（運賃：6,160円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）

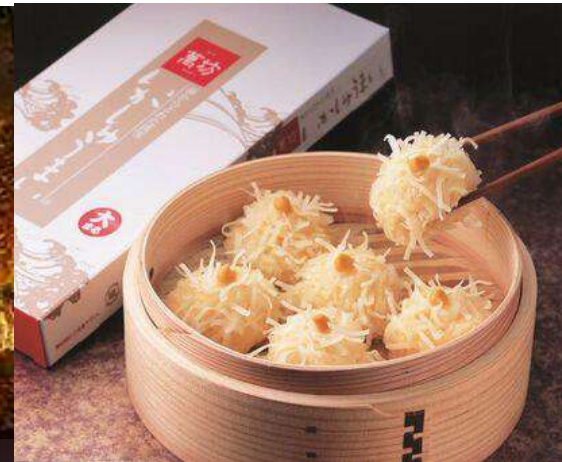
優待料金：6,280円（運賃：0円、新幹線自由席：4,500円、特急指定席1,780円）



株主優待制度（JR九州グループ株主優待券）



- JR九州グループの各利用対象施設で現金同様にご利用可能な**500円券（一律5枚）**
- 関東、関西及び九州・沖縄にある JR 九州グループの駅ビル、ホテル、飲食店など約100施設で利用可能



株主優待制度（JR九州高速船株主優待割引券）



- 福岡～釜山間を運行するQUEEN BEETLEのスタンダードクラスを往復1万円で利用可能



株主優待制度（長期保有株主優待制度）



ご優待内容

「鉄道株主優待券」と
「JR九州グループ株主優待券」を追加で発行

発行基準

毎年3月31日を基準日として、**500株以上**を保有し、かつ
100株でも継続して**3年以上**保有

所有株式数	鉄道株主優待券 	長期保有 株主優待	JR九州グループ株主優待券 	長期保有 株主優待	JR九州高速船 株主優待割引券 
100株～500株未満		—		—	
500株～1,000株未満	100株ごとに 1枚	1枚 追加		2枚 追加	
1,000株～10,000株未満	10枚+1,000株超過分 200株ごとに 1枚	2枚 追加	一律5枚（500円券× 5枚 ）	4枚 追加	一律 1枚
10,000株～20,000株未満	55枚+10,000株超過分 300株ごとに 1枚				
20,000株以上	100枚				

例）2024年3月31日時点での所有株式数が500株以上であれば、
直前3年間の保有株式数が500株未満であっても長期保有株主優待の対象となります。

株主優待制度（本年7月から拡充します）



- 駅ビルでのご利用時に、ショッピングチケットへの交換が不要に！
- 長崎マリ奥特ホテルや、「黒糖ドーナツ棒」シリーズでおなじみの(株)フジバンビの店舗でも利用可能となり、ますます利用しやすくなります。
- 本年3月31日時点で当社株式を100株以上お持ちの株主さまに対し、3種類の株主優待券を6月下旬ごろお送りいたします。



<長崎マリ奥特ホテル ロビー>



<黒糖ドーナツ棒>



JR九州の経営戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



JR九州グループの経営計画の体系



KYUSHU RAILWAY COMPANY

価値創造ストーリー

「あるべき姿」には、私たちが、九州の元気をつくっていく、さらに、九州から日本、そしてアジアを舞台に元気をつくっていくという思いが込められています。

「誠実」、「成長と進化」、「地域を元気に」の3つの「おこない」は、私たち一人ひとりが常に立ち返るべき拠り所として大切にしている行動指針です。

当社グループは、「あるべき姿」に向けて「おこない」のもとに事業を実践することで、企業価値向上と持続可能な社会の実現を目指していきます。

あるべき姿

安全とサービスを基盤として
九州、日本、そしてアジアの元気をつくる
企業グループ

価値創造プロセス

JR九州グループが
大切にしている
3つのおこない

「誠実」
「成長と進化」
「地域を元気に」

JR九州グループ
中期経営計画
2022-2024

2030年 長期ビジョン

安全・安心なモビリティサービスを軸に
地域の特性を活かしたまちづくりを通じて
九州の持続的な発展に貢献する

2030年長期ビジョン実現方針

- 方針① 価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり
- 方針② 九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

マテリアリティ

JR九州グループが常に考えるべきこと

- E** 脱炭素社会の実現
- S** すべての事業の基盤となる安全とサービス
- S** 持続可能なまちづくり
- S** 価値創造の源泉である人づくり
- G** 健全な企業運営

JR九州グループの経営計画の体系



● 2030年長期ビジョン実現方針

2030年長期ビジョン(前中期経営計画から継続)

安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

◆ 2030年長期ビジョン実現方針

方針①

価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり

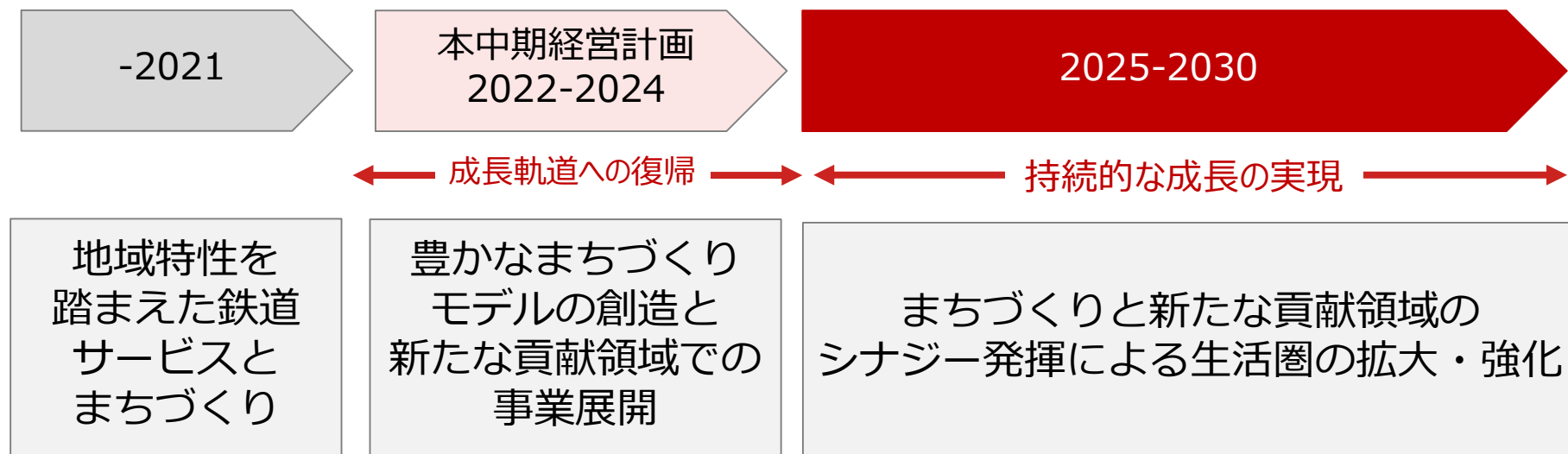
方針②

九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

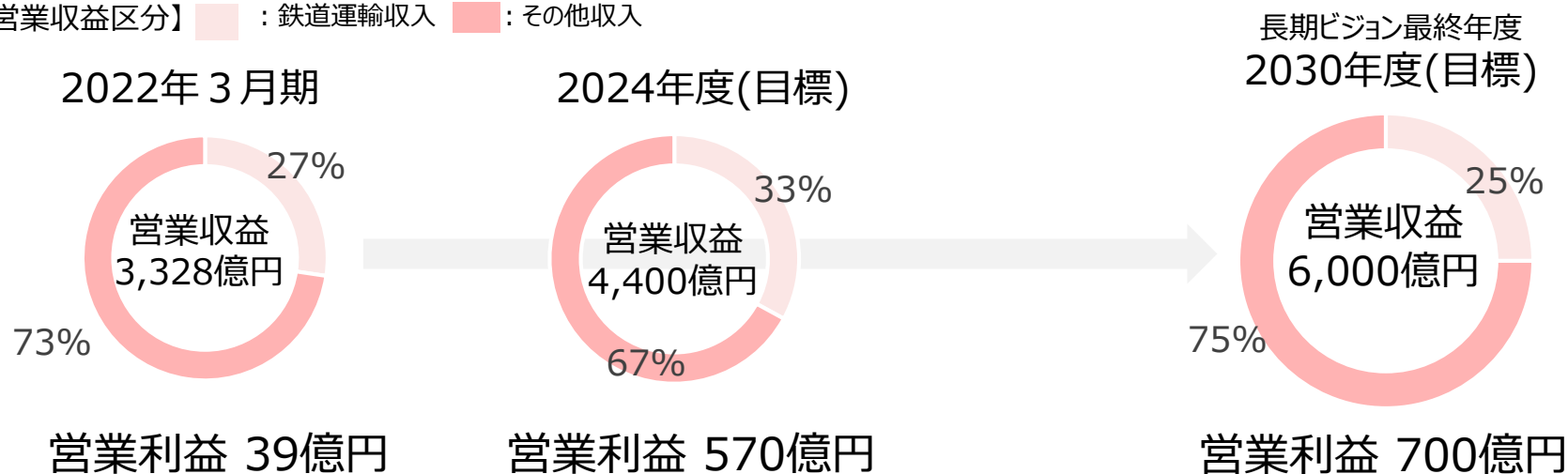
JR九州グループの経営計画の体系



●長期ビジョン実現に向けたステップ



【営業収益区分】 : 鉄道運輸収入 : その他収入





本中期経営計画の重点戦略



KYUSHU RAILWAY COMPANY



3つの重点戦略

- 重点戦略① 事業構造改革の完遂
- 重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造
- 重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開



3つの重点戦略

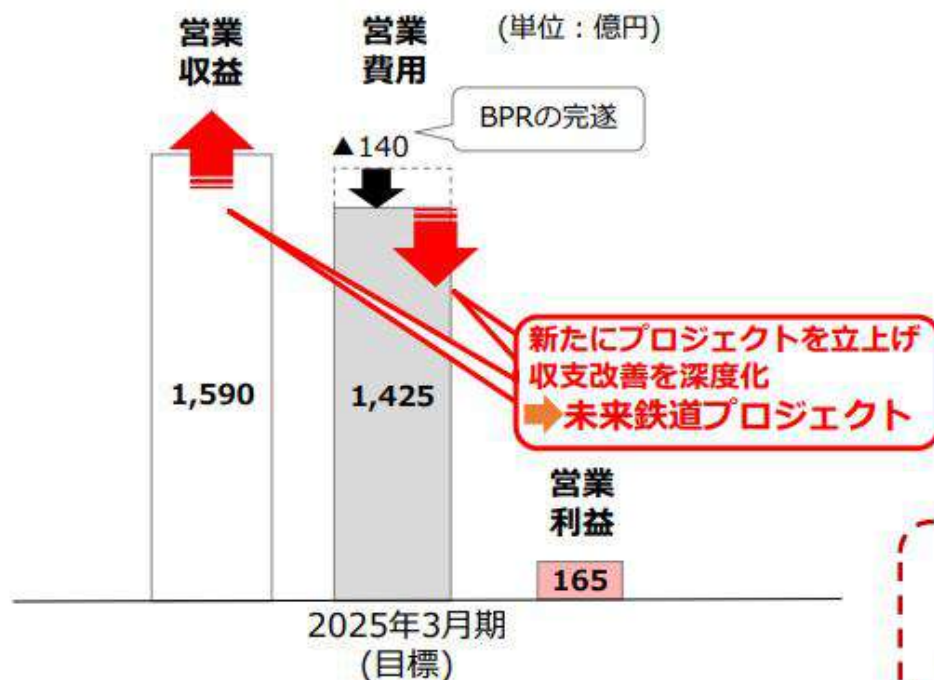
重点戦略① 事業構造改革の完遂

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開

- BPRで培ったスリムな鉄道事業を起点として、モビリティの進化と経営体力の強化に取り組み、九州のまちづくりを牽引する「未来の鉄道」をつくる

中期経営計画と未来鉄道プロジェクトの関係性



九州のまちづくりを牽引する 「未来の鉄道」をつくる。

モビリティの進化
経営体力の強化

セカンドステージ2030

- ・インテリジェントな鉄道
- ・持続可能なモビリティサービスの展開

ファーストステージ2024

- ・グループ全体での収支改善
- ・持続可能なモビリティサービスの共創
- ・技術革新によるセカンドステージの土台作り

コスト
削減

技術革新による
コスト削減

収入獲得

収支管理
の見直し

成長への投資

BPR

コスト削減▲140億円
(継続的に発現)

重点戦略① 事業構造改革の完遂 | 鉄道事業（未来鉄道プロジェクト）

国内初となるGOA2.5自動運転※ 3月16日に開始

- ・新技術を活用し、自動化を図ることで業務効率を高めます。
 - 本年3月に香椎線の西戸崎駅～宇美駅間（25.4km）で導入予定。
同区間を運行する全列車が自動運転列車（運転士乗務含む）となる予定
- ※列車前頭に自動運転乗務員（運転士以外の係員・社内資格）
が乗務し、緊急停止操作等を行う運行形態
- ※GOA = Grade of Automation

【導入効果（想定）】

- 運転士のなり手不足解消
- 乗務員養成コストの削減



QRコードを利用したチケットレスサービス 今秋サービス開始予定

・シームレスな移動サービスを推進します。

- 九州内完結のネット限定きっぷのうち、博多駅を発着する主な特急列車および西九州新幹線の運行区間の商品を対象に実施
(2025年度以降、サービス対象拡大を予定)



【導入効果（想定）】

- お客さまの利便性向上
- 駅窓口や指定席券売機の混雑緩和

※ネット限定きっぷの約半数が本サービスの対象となる予定（今秋の開始時）





3つの重点戦略

重点戦略①

事業構造改革の完遂

重点戦略②

豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③

新たな貢献領域での事業展開

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州エリアのまちづくり



西九州新幹線の開業1年目のご利用状況

西九州新幹線 ご利用者数

約6,600人/日
19.3期比 102%

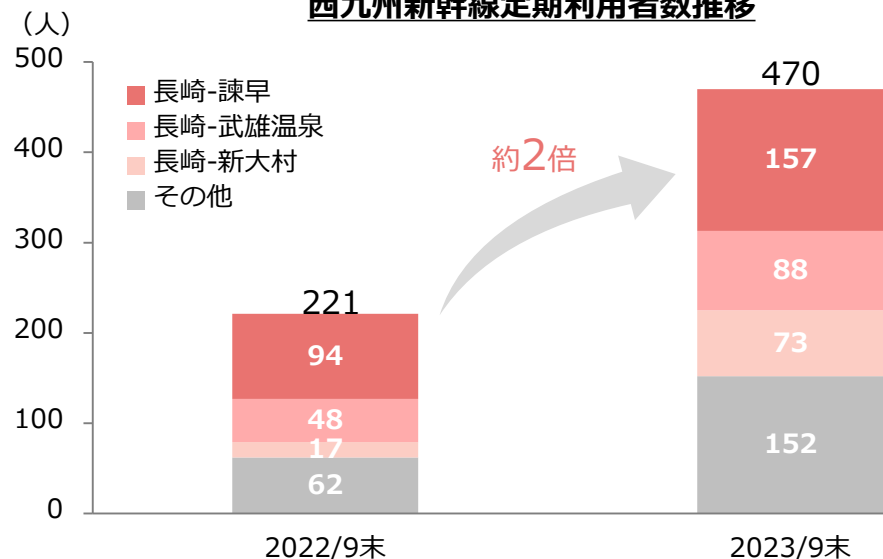
※ 2022/9/23～2023/9/22
※ 武雄温泉～長崎間の実績
※ 19.3期比は諫早～長崎間の特急
「かもめ」との同曜日比較

収入実績

約48億円

※ 2022/9/23～2023/9/30

西九州新幹線定期利用者数推移



西九州エリアの開発状況

2023年4月

2023年10月

2023年11月

2024年1月

A 佐賀駅高架下
リニューアル



B 嬉野八十八
(温泉旅館)



- ・客室数：36室
- ・全室源泉かけ流し温泉完備

C JR長崎駅ビル



D 長崎マリオットホテル

重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 西九州エリアのまちづくり



西九州エリアのまちづくりの核「JR長崎駅ビル」が昨年11月に開業

- ・ 鉄道の利用増にも貢献。西九州新幹線は九州新幹線の利用トレンドを超過

JR長崎駅ビルの開業



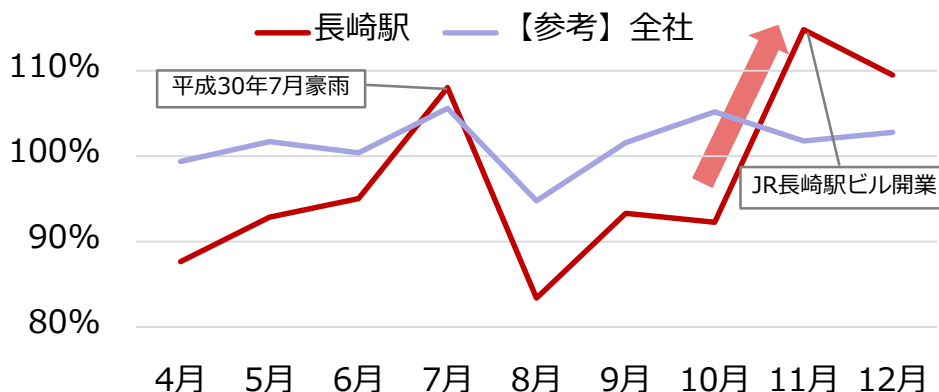
開業 1 か月間
ご来館者数

約256万人
対前年234%

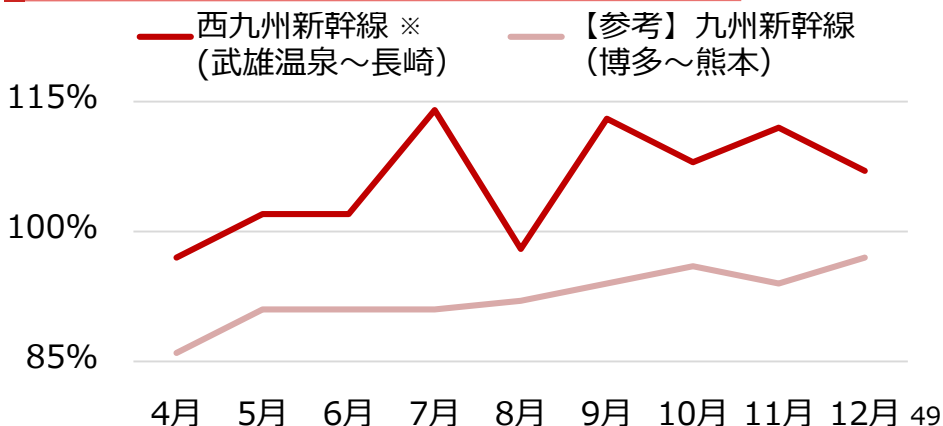
オフィス
リーシング状況

約 9 割内定

長崎駅近距離収入の19.3期比



西九州新幹線ご利用者数の19.3期比



※ 諫早～長崎間の特急「かもめ」との比較



重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 福岡エリアのまちづくり



- 人口増加数・増加率が政令指定都市で最大である福岡市において、住宅型有料老人ホームや複合体験型アウトドア施設の開発・運営など幅広いまちづくりを推進

簗子小学校跡地活用事業（りすのこスクエア）



【SJRザ・クラス大手門】

施設類型：

住宅型有料老人ホーム

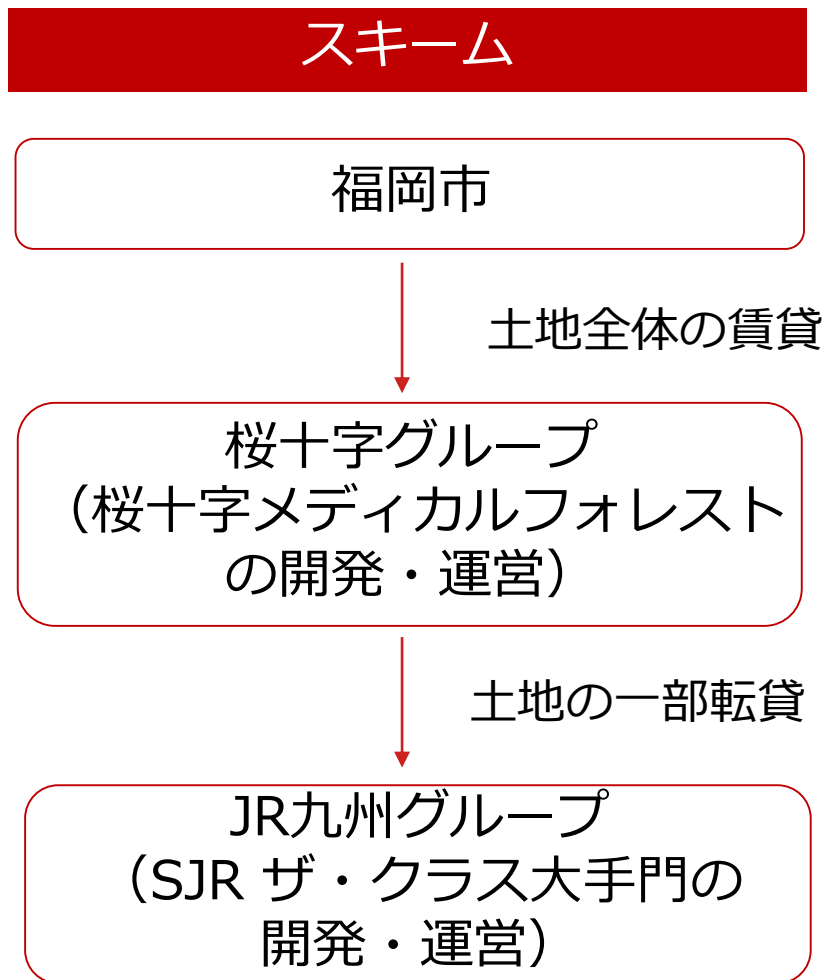
入居開始：2024年1月

構造：地上13階

総居室数：168室



スキーム



重点戦略② 豊かなまちづくりモデルの創造 | 福岡エリアのまちづくり



油山市民の森等リニューアル事業

2024年春開業予定

農園併設レストラン

森林アウトドアパーク

MTBトレイル

アウトドアショップ
カフェ

チーズ工房併設ショップ

キャンプ

BBQ

シェアオフィス（ワーケーション）
ボタニカルカフェ

2024年春開業予定

グランピング

観光農園

ABY BNF
ABURAYAMA
BACK TO
NATURE
FUKUOKA

第1期	【2023年春開業】 ストア、レストラン、 キャンプフィールド、 カフェ、BBQ、 シェア農園
第2期	【2023年秋～冬開業】 シェアオフィス フォレストアドベン チャー、 ボタニカルカフェ
第3期	【2024年春開業予定】 グランピング施設

New

スキーム

福岡市

土地・建物一部賃貸
行政施設の指定管理

JR九州グループ

- ・行政施設の指定管理事業
- ・民間活用施設の開発・運営
(基本的にFC含め事業主体、一部テナント)



3つの重点戦略

重点戦略①

事業構造改革の完遂

重点戦略②

豊かなまちづくりモデルの創造

重点戦略③

新たな貢献領域での事業展開

重点戦略③ 新たな貢献領域での事業展開



● 系統用蓄電池事業への参入

JR九州

- ・線路沿線の未利用地
- ・有資格者
(電気主任技術者)

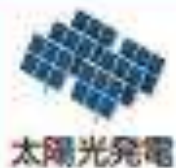
住友商事グループ

- ・事業ノウハウ
- ・蓄電池
サプライチェーン



社名	でんきの駅合同会社
設立年月	2023年4月
出資者	九州旅客鉄道株式会社 BSホールディングス株式会社 [※] 住友商事九州株式会社

※蓄電アセットを保有・管理する住友商事100%子会社



太陽光発電



風力発電



蓄電池による
電力供給の安定化



火力発電



揚水発電



熊本市内に設置を進める蓄電池設備イメージ



本中期経営計画の実行を支える 人づくり・基盤づくり

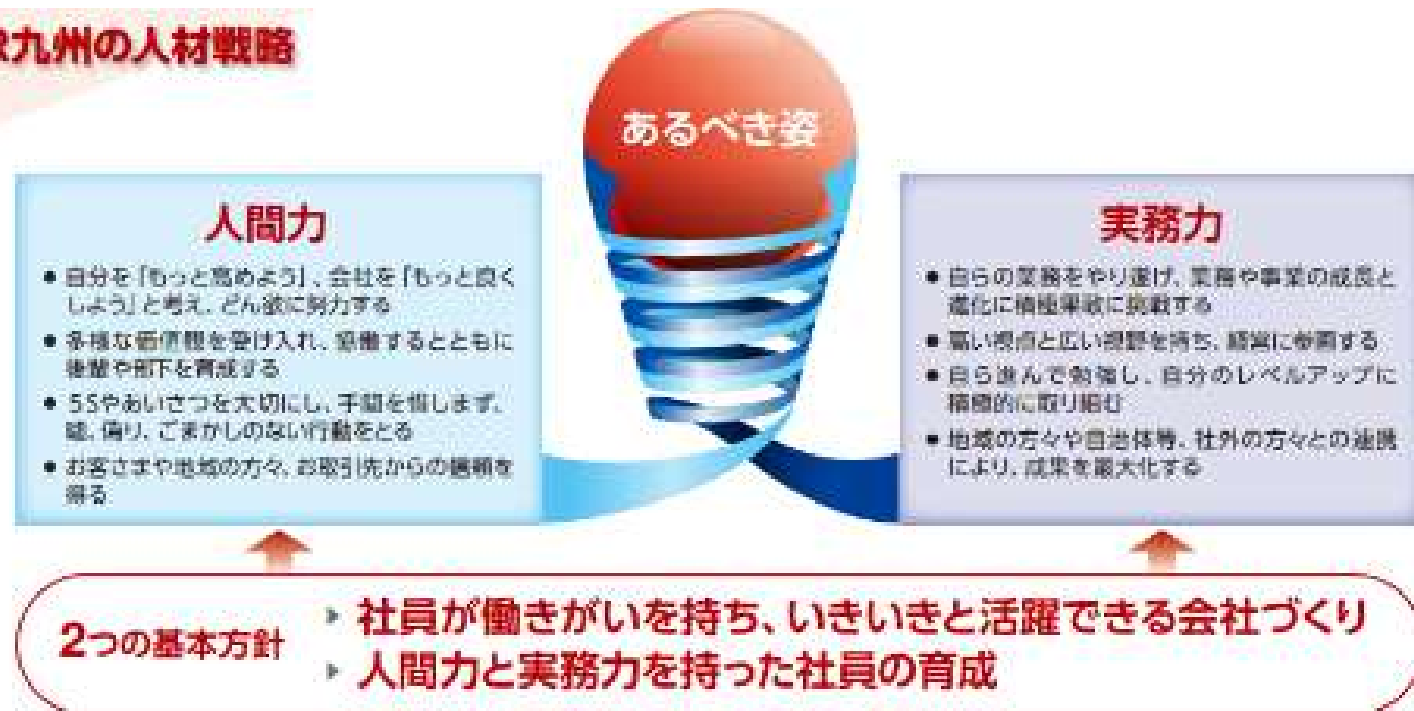


KYUSHU RAILWAY COMPANY

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり



JR九州の人材戦略



人材戦略の4つの柱

意欲と能力のある社員への挑戦・成長の機会の提供と支援

多様な価値観や能力を持つ社員の活躍による新たな価値の創造

努力と成果に応じたメリハリのある評価と報酬

ライフプランに合わせた柔軟な働き方が選択できる環境整備と健康経営の推進

本中期経営計画の実行を支える人づくり・基盤づくり



●JR九州グループDX戦略2022-2024

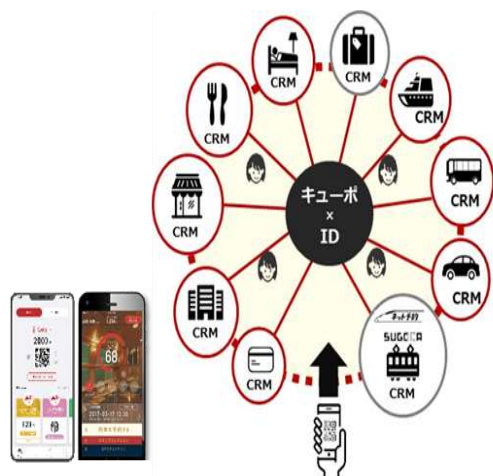
DX推進

DX: デジタルトランスフォーメーション

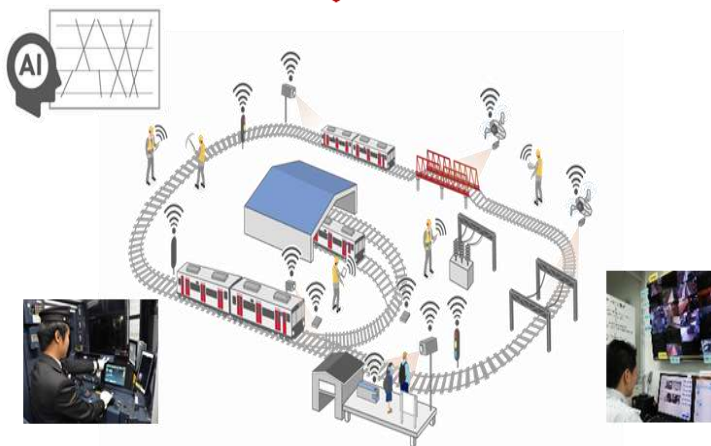
デジタル技術を発展させ、業務の効率化だけでなく人々の生活をより良いものへと変革すること

デジタル推進体制の構築

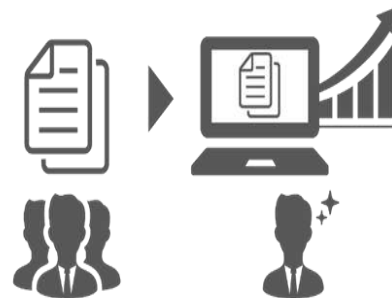
デジタル基盤の整備



お客さま体験価値向上



オペレーション・メンテナンス改革



働き方改革・生産性向上



JR九州グループにおけるESGの取り組み



KYUSHU RAILWAY COMPANY

JR九州グループにおけるESGの取り組み



● ESG経営は全社的課題



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)

JR九州グループにおけるESGの取り組み

● E：脱炭素社会の実現に向けて

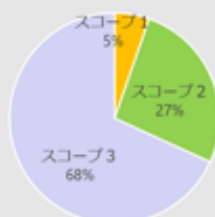
TCFD提言に基づく情報開示

- 2021年2月
- ・ TCFD提言への賛同と2050年カーボンニュートラルを宣言
 - ・ 「ガバナンス・戦略・リスク管理・指標と目標」を開示
 - ・ リスクと機会の特定

- 2021年8月
- ・ 2030年中間目標（JR九州単体で2013年度比△50%）を公表

- 2022年4月
- ・ スコープ3排出量の開示（JR九州単体）

2022年3月期排出量（JR九州単体：819千t-CO₂）



- 2022年8月
- ・ 1.5℃シナリオ分析の実施
 - ・ 財務影響増加額を一部開示

脱炭素社会の実現に向けた基本的な考え方



脱炭素社会の実現に向けたロードマップ



*1 エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)で定められる定期報告の集計値

*2 スコープ1、2排出量

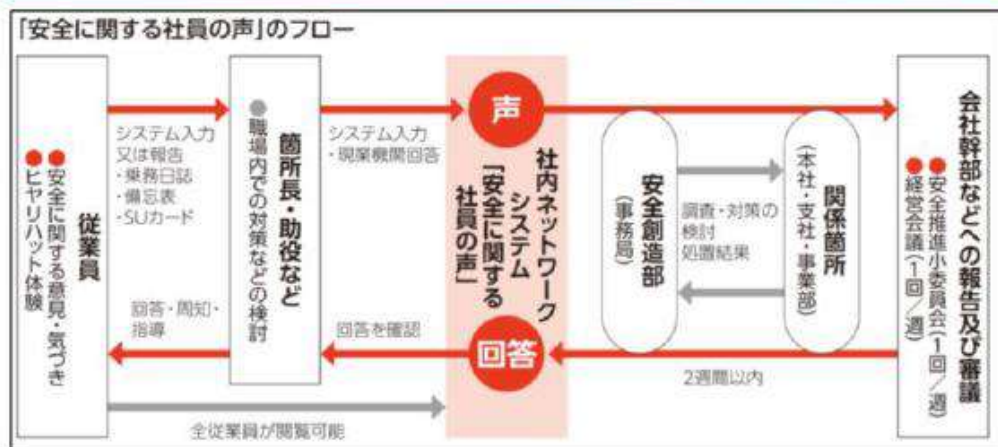
JR九州グループにおけるESGの取り組み

● S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

安全に関する基本的な考え

安全はあるものではなく、つくりあげていくもの

安全に関する社員の声



「安全に関する社員の声」による改善事例



お客さまが転落する危険性



転落防止用のフェンスを設置

安全創造館研修



リニューアルした安全創造館の研修設備



経営陣が受講する様子（6巡目研修）

- ・ 2011年1月開設
- ・ 経営陣をはじめ全従業員を対象
- ・ グループ会社従業員も受講
- ・ 2021年3月にリニューアル
- ・ 現在、6巡目研修を実施中
(およそ2年に1回のサイクルで受講)

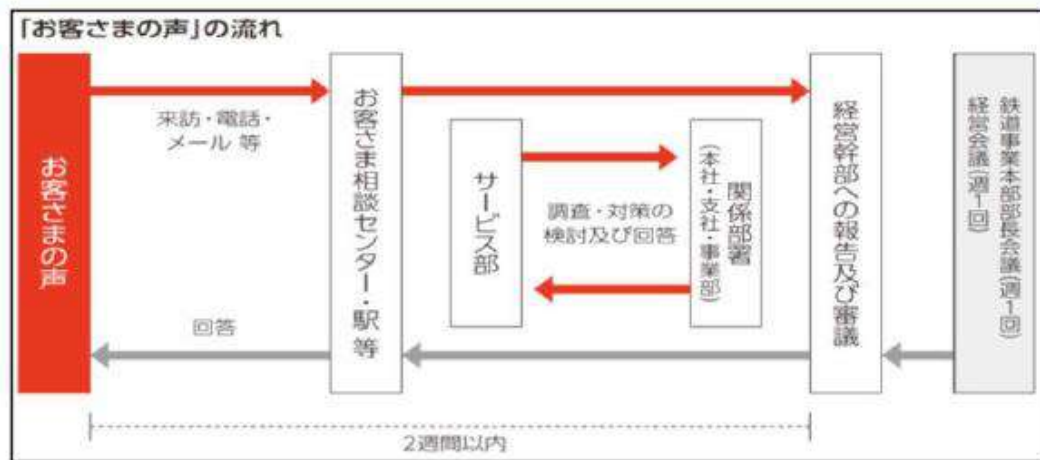
JR九州グループにおけるESGの取り組み

● S：すべての事業の基盤となる安全とサービス

サービスに関する基本的な考え

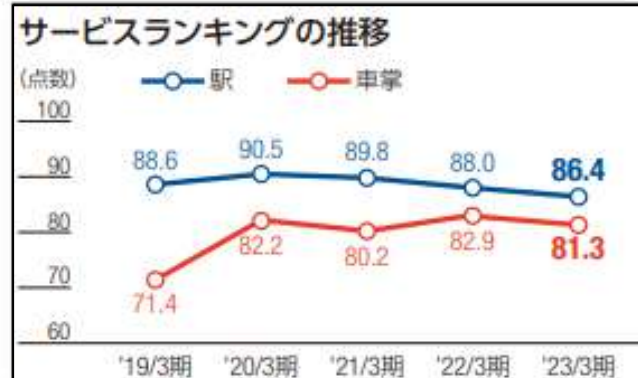
お客さまの声に耳を傾ける

お客さまの声



- 代表取締役社長執行役員を委員長とする「サービスを社風にする委員会」において、お客さまの声进行分析
- お客さまの声を活かし、サービスの品質を高めるPDCAサイクルを機能させる

サービスランキング



外部調査機関に依頼して、第三者からの視点でサービスレベルを調査

駅社員のコメントの一例

日頃のサービスへの取り組みが定期的に可視化され、成長度合いや課題が見えることから、自駅のサービス向上に欠かせない指標となっている

JR九州グループにおけるESGの取り組み

● G：ステークホルダーとのコミュニケーションの充実

● 地域社会との持続的な関係づくり

D&S列車を通した地域のおもてなし



JR九州ウォーキングによる地域とのつながり



BRTをはじめとする沿線の皆さまとの検討会



地域の皆さまと様々な職場との取り組みや連携



JR九州グループ統合報告書2023



- JR九州グループの財務情報に加え、経営方針・事業戦略・ESG情報等の非財務情報を記載した**統合報告書**を作成・公表



JR九州 統合報告書

検索

https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/integrated_report/



みんなと
前へ。

本日のまとめ



JR九州について

九州内を中心に、鉄道事業のみならず不動産、流通・外食事業等さまざまな分野で地域とともに「**価値**」を創出してきた企業グループ

決算ハイライト & 株主還元

株主還元を経営上重要な施策と位置づけ、

長期安定的な還元を目指す

2024年度3月期は1株当たり年間93円の配当予想

株主優待は3種類（長期保有株主優遇制度あり）

JR九州の 経営戦略

「あるべき姿」の実現のため、2030年長期ビジョンを掲げ
安全・安心なモビリティサービスの提供と地域の特性を活かした
まちづくりを通じて、九州の持続的な発展に貢献する

株主さま向けメールマガジンのご案内



- 当社の株主さま向けに月2回程度、IR情報や株主さま限定イベント、アンケート等の情報をお届けいたします。

[🏠](#) > [企業・IR・ESG・採用](#) > [IR情報](#) > [IRライブラリ](#) > [個人投資家向け資料](#) > [メールマガジン](#)

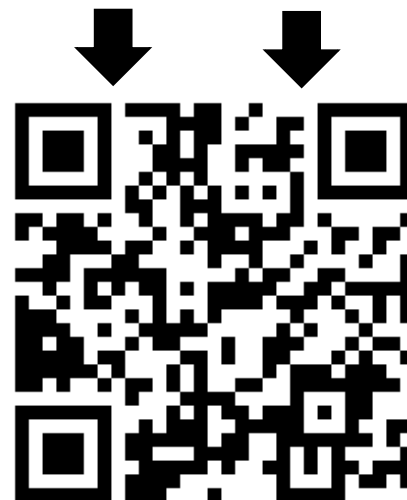
JR九州株主さま向けメールマガジン登録のご案内

JR九州株主さま向けメールマガジンは、当社の株主の皆さまへの情報提供サービスです。以下のバナーをクリックして株主さまの情報をご登録いただきますと、メールで当社の企業情報やキャンペーン情報をお届けします。

※当社の株主さま限定のサービスとなります。

[新規登録（登録料・年会費はありません） >](#)

ご登録はこちら



※本メールマガジンは、トライコーン株式会社のメール配信ASPサービス「クライゼル」を採用しており、申込受付フォームは「クライゼル」のサイトとなりますので予めご了承ください。



Q

株主還元方針について、
具体的に教えてください。



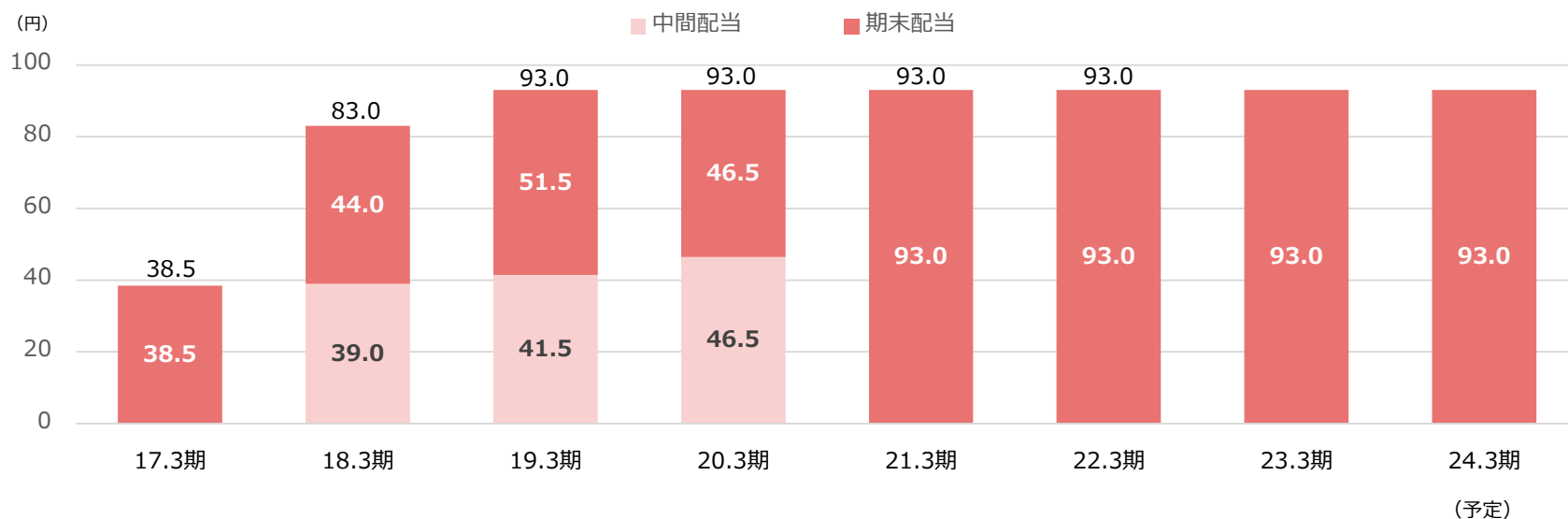
株主還元方針

- 2024年3月期は**期末に1株当たり93円**の配当予定

株主還元方針

- 株主還元は長期安定的に行っていくことが重要と考え、2025年3月期まで1株当たり配当金93円を下限として、連結配当性向35%を目安に配当を行い、状況に応じて機動的に自己株式取得を行う

(参考) 1株当たり年間配当金の推移



配当性向	13.8%	26.3%	30.2%	46.9%	-	110.3%	46.9%	35.9%
総還元性向	13.8%	26.3%	30.2%	78.6%	-	110.3%	46.9%	35.9%

※自己株式取得 (100億円)



Q 今後の成長戦略について
お聞かせください。



JR九州グループの経営計画の体系



● 2030年長期ビジョン実現方針

2030年長期ビジョン(前中期経営計画から継続)

安全・安心なモビリティサービスを軸に地域の特性を活かしたまちづくりを通じて九州の持続的な発展に貢献する

◆ 2030年長期ビジョン実現方針

方針①

価値観の変化を捉えた“豊かな生活を実現する”まちづくり

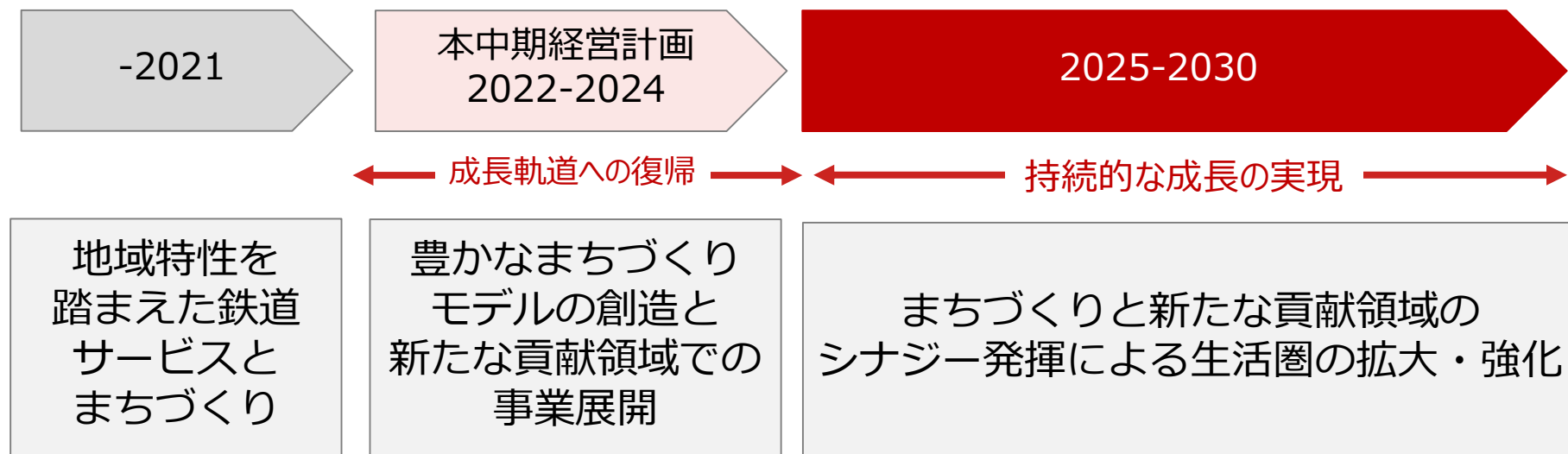
方針②

九州の持続的な発展に貢献する領域の拡大

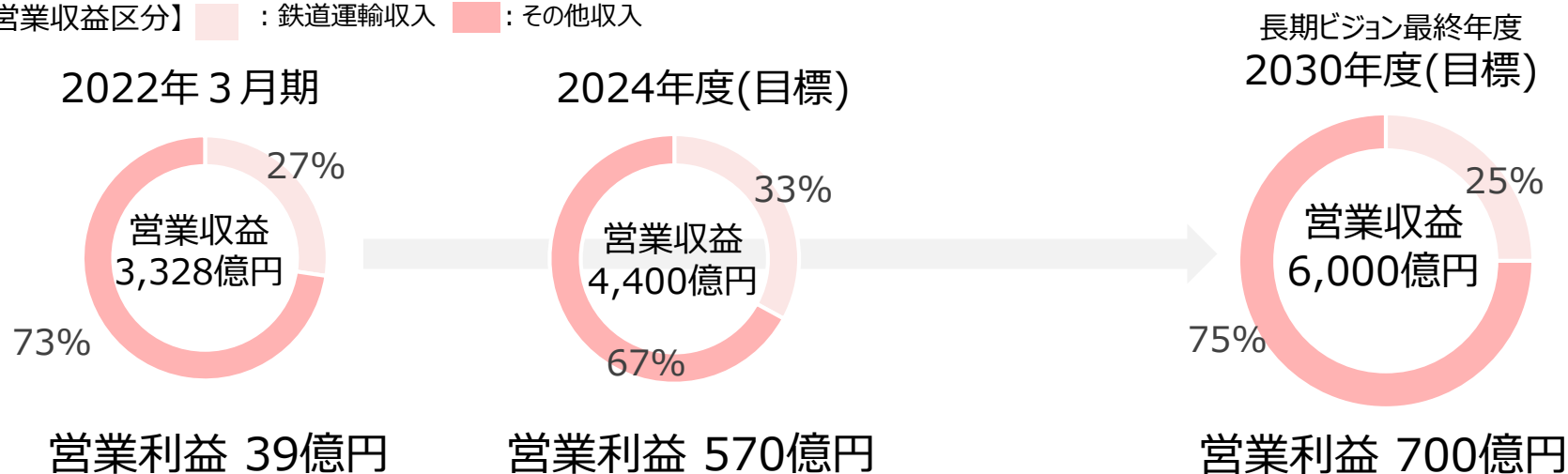
JR九州グループの経営計画の体系



●長期ビジョン実現に向けたステップ



【営業収益区分】 : 鉄道運輸収入 : その他収入





株価の上昇に伴う
Q 株主優待の拡充の予定は
ありますか？



株主優待制度（本年7月から拡充します）



- 駅ビルでのご利用時に、ショッピングチケットへの交換が不要に！
- 長崎マリオットホテルや、「黒糖ドーナツ棒」シリーズでおなじみの(株)フジバンビの店舗でも利用可能となり、ますます利用しやすくなります。
- 本年3月31日時点で当社株式を100株以上お持ちの株主さまに対し、3種類の株主優待券を6月下旬ごろお送りいたします。



<長崎マリオットホテル ロビー>



<黒糖ドーナツ棒>



Q

九州内の公共交通他社との連携について、鉄道に限らず、バスやタクシー、旅客船事業者との業務提携や経営統合、買収などを行うことを検討していますか？

MaaSの推進

MaaSの更なる推進に向けて、地域交通事業者・自治体・経済団体等との連携の強化を図るとともに、九州各地における取り組みを拡大・深度化

1 “my route” 利用エリア拡大

- 熊本県内でマルチモーダルモビリティサービス“my route”を活用したMaaSのサービスを開始

2 デジタルチケットのQRコード化

- “my route”で発売するデジタルチケットの一部をQRコード化し、駅に設置されたQRコードリーダー端末にかざすことで改札できる仕組み
- 宮崎地区から始めた実証実験を、長崎エリアに拡大



券面イメージ

3 乗降駅を選択して運賃計算を行うデジタル乗車券

- スマートフォンで任意の乗降駅を選択してデジタル乗車券を購入し、チケット画面のQRコード判定により乗降ができるサービス
- 長崎県内で実証実験を開始対象エリア：
長崎本線、佐世保線、大村線区内の32駅相互間



券面イメージ



読取部

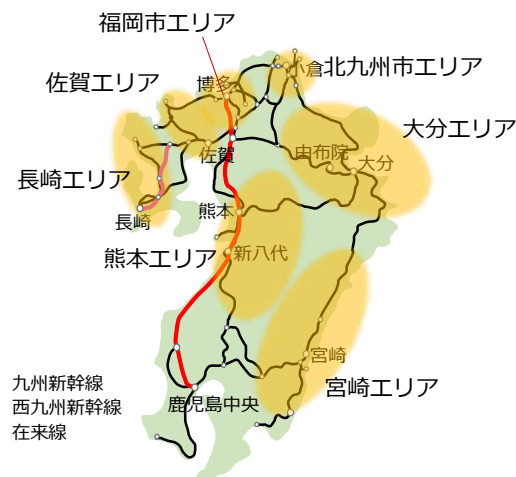
QRコード
読取端末

今後の方向性

デジタルを活用した、シームレスなモビリティサービスの構築、観光など地域のコンテンツと連携したサービスの提供など、MaaSの取り組みを九州全域に展開

地域交通の利便性の向上や、地域経済の活性化につながる取り組みを推進

MaaSの取り組み状況イメージ



九州における広域MaaS(同一プラットフォーム/アプリ基盤の導入)

- 九州全域で地域が一体となったMaaSの社会実装を推進
- 地域住民・訪問者の利便性を向上
- 交通事業者が連携した持続可能な交通ネットワークの構築に活用
- “ウィズコロナ”の観光の利便性・競争力の向上

「九州内が一体となった推進体制の構築」
交通事業者・官民・経済団体など幅広いプレイヤーとの連携を推進
MaaSのグランドデザインの検討／データ活用の推進



将来の見通しに関する記述について

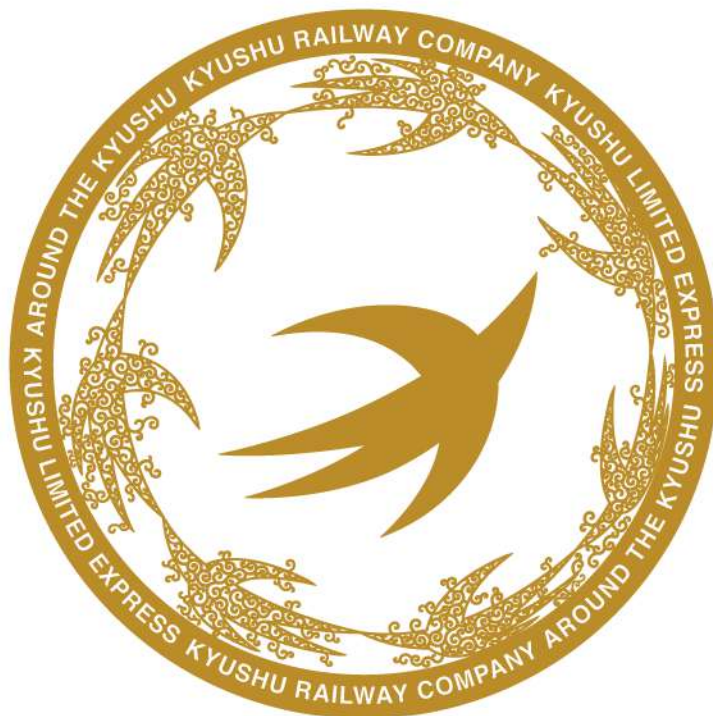


本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況、人々の価値観やライフスタイルの変化、国内外および九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR九州ホームページ

<https://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>



ありがとうございました

